

[HP掲載内容]

平成20年度第1回宮崎県社会教育委員会議要旨

- 1 開催日時：平成20年5月22日（木）13時30分から15時30分まで
- 2 会 場：県庁会議室
- 3 出席者：委員15名（2名欠席）

4 概 要

- (1) 議長あいさつ
- (2) 説 明「生涯学習課主管事業について」
- (3) 説 明「会議の中間まとめと今後の取組の方向性について」
- (4) 分科会
(家庭の教育力向上部会)
協議題「食育指導を通じた家庭教育の充実について」



事務局 昨年度、家庭の教育力向上部会、地域の教育力向上部会において中間まとめをしていただいた。最終的にはそれに肉付けをし、ある程度ボリュームのあるものを提言としてまとめていただきたい。

- 「早寝、早起き、朝ご飯」は、文部科学省を中心に啓発活動が行われており、その重要さが広く認識されてきている。更に各関係機関等で啓発していく必要があると思われる。
- 食事は、今と昔の感覚では大きく違ってきている。例えば、朝ごはんと言えば、「ごはん」と考える人もあるだろうし、「パン」と考える人もいる。だからこそ、今の時代にあったものを提言していかなければならない。
- ある地域では、時期を限って朝食を学校で食べるといった取組がなされている。これは、子どもたちに朝食をしっかりと食べさせるだけではなく、栄養や必要なカロリー、量といったことを学ぶ、食育指導の一環として取り組まれている。
- 今後、県民運動として取り組むようなものを提言できればいいのではないか。例えば、社会教育関係団体全ての合い言葉としていくようなもの。
- 生活リズム運動を社会教育関係団体で合い言葉にしてはどうか。
- 家庭の教育力向上に向けての方策の一つとして、将来大人になる子どもたちに食育指導をしっかり行うことが大切である。また、社会教育関係機関においてもそれぞれの関係機関ができることに取り組んでいく必要がある。

(地域の教育力向上部会)

協議題「地域住民主体の活動拠点づくりについて」

- 県の放課後子ども教室の取組は昨年度に比べ増えている。実態を掴みながら取り組み方を工夫していきたい。コーディネーターをどのように育てるかが課題だと思う。また、児童クラブとの兼ね合いが難しい面がある。
- 現在、子どもたちの活動拠点が少なくなっていると思う。青年団として、な

かなか放課後子ども教室に協力できていない状況がある。青年が関わることのできる事業があるといい。

- ジュニアリーダーの存在があるが、年下の子どもに対する指導力を発揮している。中高校生を含めた子どもたちへの指導が大切であると考えている。また、地域で子どもを育てるための方策として、公民館での通学合宿がある。1週間程度取り組むと子どもたちは目に見えて変容してくる。しかし、保護者が我が子を心配して参加させない状況もある。
- 非行に走った子どもの保護者等に対する支援体制はどうなっているのか。保護者等を支える地域、家庭を支える体制づくりが望まれる。そのためには、コーディネーターの確保や役割が重要であると考えている。地域のことを考え、子育てママの自分磨き講座や学社融合の取組など積極的に働きかけることができる人材が望まれる。
- 婦人会の子育て支援事業では、子どもの1日預かりや、子育て相談を行っている。放課後子ども教室のコーディネーターとしても積極的に関わっている。

(5) 全体会

- 各分科会報告
- まとめ
 - ・ 今後、提言としてどのようにまとめていくかを共通理解することが大切である。それぞれ本日の課題等を持ち帰って、整理していただきたい。
 - ・ 今後、提言では時代を読み取ることが大切であると考えている。教育の場では不易と流行があるが、今の時代を読み取り、みんなが賛同でき、時代にあったものを提言したい。